



東北大学グローバルCOE

第9回

Network Medicine特論

講義のお知らせ

佐竹 正延 博士

(東北大学加齢医学研究所 免疫遺伝子制御研究分野・教授)

転写因子、Tリンパ球、そして自己免疫性 肺疾患のネットワーク・メディスン

日時: 1月23日(月)17時30分

場所: 医学部1号館2階第一セミナー室

獲得免疫系の中にあつてTリンパ球は、細胞性免疫と液性免疫の両方を調節し、さらに自然免疫系とも連携する、いわば免疫系の司令塔的存在である。Tリンパ球が十全な機能を発揮する為には、様々な分化段階を経て成熟せねばならないが、その様相を転写因子の相互作用、ネットワークの観点から概説する。しかしそれのみでは生理学であつて、メディスンにはならない。転写因子の発現パターンを攪乱することにより我々は、自己免疫機序に基づく肺病変(正確には肺胞タンパク症)を誘導することに成功した。作出したマウスは、疾患理解に貢献するものと期待しており、その病態について解説する。

参考文献

Wong WF, Kohu K, Chiba T, Sato T, Satake M. Interplay of transcription factors in T-cell differentiation and function: the role of Runx. *Immunology* 132:157-164, 2010

Network Medicine特論では、最新のNetwork Medicine研究を紹介しています。最新の医学研究を理解するために必要な知識を多くの学生・教員間で共有したいと思います。

Network Medicine特論は医学履修課程の大学院講義です。受講学生は履修簿を持参し、修了後にサインを受けること。聴講は自由大歓迎です。皆さん是非ご参加ください。

拠点リーダー 岡 芳知 / 担当 佐竹 正延 (内線8481)